

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501503		
法人名	株式会社 東北産業		
事業所名	グループホームよこはま荘		
所在地	上北郡横浜町字上イタヤノ木438ー5		
自己評価作成日	平成24年8月17日	評価結果市町村受理日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成24年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした施設づくりを念頭に、開設からまもなく7年が過ぎようとしていますが、ようやく地域の方にも理解が得られるようになり、ボランティア、推進委員の方々と今後も密に連携できるよう努力していく中で、入居者には傾聴、受容、支持の本来の理念を忘れることなく、安心して生活できる場の提供に努め、ますます地域の方々に信頼されるよう努力していきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が心やすらぎ、その人らしい生活を送れるよう、職員は利用者一人ひとりの話をよく聞くことを優先し、日々の支援に努めている。 また、日常的な外出や地域行事に積極的に参加して声をかける等、地域とのつながりを大切にして、地域に根ざしたホームとなるよう、また、地域において利用者が生活し続けることが出来るように、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに表示し、スタッフ一同、同じ意識を持ち、取り組んでいる。	職員の話し合いにより、地域密着型サービスの思い・役割を盛り込んだホーム独自の理念を作り上げている。また、ホーム内の目に付く所に理念を掲示している他、ユニット会議や全体会議の中でも理念の共有化に努めており、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を十分に理解しながら、日々のサービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や学校、保育所、町のイベントに参加している。	年4回発行しているホーム便りを交番や郵便局等の公共施設に配布している。また、日常的な外出やホーム行事、町の行事への参加の際に声をかける等して、ホームへの理解を得るように努めており、気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ時、来訪者にはその都度話をしているが、地域に出てまでは行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では入居者や職員の状況を報告し、意見や要望等を聞きながら、介護の質の向上やサービスの向上に向け、職員にも話をしている。	地域の民生委員や家族代表、行政担当課職員等が構成員となっている運営推進会議は2ヶ月に1度、その月の第3火曜日と決めて開催している。行事やホーム運営について地域の協力が得られるよう、積極的・具体的な意見が出されている他、自己評価及び外部評価結果の報告も行い、委員の意見を参考にしながら、改善や対応についての取り組み等を行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の施設の情報や推進会議への参加を通して取り組んでいる。	自己評価及び外部評価の結果について町に報告書を提出しており、ホームの周知及び理解を図っている他、運営推進会議には行政担当課が参画し、連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ずベッド柵を使用することもあるが、玄関を開放し、押さえつけない、強制しないことを職員に徹底している。	管理者及び職員は、外部研修や内部研修を通じて身体拘束について理解しており、一緒に見る・聞くことを大事にしながら本人の視点に立つことで、身体拘束を行わない支援に努めている。やむを得ず身体拘束を行う場合には、その理由や経過記録、期間等について書面で交わし、経過観察等を開示する体制をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議での内部研修にて繰り返している。うっ血する方もあり、ヒヤリハットで報告し、予防するための検討会議を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月の職員会議やチラシ等を用いて、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分説明はしているが、入院等で家族が不安にならないよう、面会を繰り返し、安心感をもてるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	正面玄関に意見箱の設置をしている。また、面会時に状態の報告等を行い、要望や意見を聞いている。	面会時には家族に個別に声がけをしている他、運営推進会議には家族代表者が参画し、具体的な意見や要望が出されるように働きかけている。重要事項説明書及び玄関に内部及び外部の苦情窓口を明示している他、玄関に意見箱も設置して把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で月1回の福祉部会議の報告を行い、会社の意向を伝えている。	職員からはなかなか意見が出ないが、ユニット会議やリーダー会議等の意見を管理者や本部事業部へつなげるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	8月と12月に自己評価を行い、賞与に反映が出来るようになっており、開設時以降、徐々に改善傾向にある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り外部研修に参加出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との交流は思うように出来ていないが、夏祭りにはお互いに訪問している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わったことで不穏になることもあり、家族にも協力を依頼しながら、落ち着いた生活が送れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安としては、「自宅に帰ると落ち着きがなくなったら」という不安が強いことが多いが、心配ないよう、電話や月の状況報告にて、安心出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの聞き取りを行い、本人が出来ることを見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を「見てあげている」という意識を持たず、入居者と「一緒に生活している」ということを、職員間で繰り返し話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力なしでは支援が出来ないことを職員は理解しており、協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町のイベントへの参加の他、施設内の行事に参加・協力をしていただき、来訪の折に会話がもてるように支援している。	男性は理髪店、女性は美容院等、入居後も行きつけの店へ行けるように支援をしている。帰宅願望の強い利用者には自宅を見せたり、時には鍵を開けて中を見せる等しており、馴染みの場所への支援を行っている。また、知人からの電話や面会等、継続して交流出来るように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団活動や簡単な手作業等を一緒に行えるよう、考えながら対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町で会ったり、機会があれば、その後の様子等を聞きながら、相談がある際は時間を割いて話し合うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	強制することなく、入居者が自由に日々の暮らしを送れるように努力している。	利用者の話を聞くことを優先しており、利用者の状態や日々の会話、関わりの中から希望や意向を把握している。また、家族からも生活歴等の情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネから入居時に聞いている他、友人や近所の方の面会時にも聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間帯の予定はなく、自由にしている。テレビを見たり、居室で休んだり、思い思いに過ごしながらも、簡単な家事のお手伝いや洗濯物たたみ、おしぼり作り等を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化や介護更新等で評価、カンファレンス、見直しをチームで行っている。	計画作成時にはカンファレンスを全職員で行い、その人らしく暮らし続けることが出来るよう、利用者の思いを反映させるために、全職員から意見を聞きだして作成している。介護計画の実施期間を明示しており、期間毎の見直しや必要に応じて随時見直しを行う等、現状に即した計画となるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やカードックスにて日々の記録を行い、状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に体調が悪くなった時は、家族に泊まっただけ、協力を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生のボランティアや地区の民生委員さんの読み聞かせを毎月行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を受けて健康管理を行っている他、医師の判断で専門医の受診が必要な際は通院をしている。	これまでの受療状況を把握しており、状態や希望に合わせて医療機関を受診している。また、協力医療機関を確保し、月2回の定期訪問診療を受けており、いつでも医師と相談出来る環境にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が24時間の対応を行い、毎日の状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携があり、通院時の協力や入院時には頻繁に面会し、看護師や家族から状態を聞きながら、早期に退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る限界まで援助を行うことを入居時に説明している他、経口摂取が出来なくなった場合を想定し、話し合いを行っている。	ホームとして可能な限り終末期に対応出来るよう、協力医療機関等との連絡調整や全員で意思統一を図りながら取り組んでいる。また、入居時に終末期の方針等について説明し、家族から同意を得ている他、家族の状況が変わる場合にも随時話し合いの場を設け、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急法の訓練を消防署の救急隊に要請し、行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成している他、地域のボランティアの名簿の作成等をして協力体制を構築している。	消防署の協力の下、年2回、昼夜を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っており、避難場所についても職員へ周知徹底している。日常的に地区の交番や学校、町内会等から協力が得られるように働きかけを行っている。また、災害時に備えて3日分程度の食料及び飲料を準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前はフルネームにさん付けとし、徹底している。言葉がけ一つで不穏になることもあり、十分に注意しながら対応している。	職員は利用者一人ひとりの話をよく聞くことを優先し、日々の支援に努めている。利用者の言動や行動を否定したり拒否することなく、その日の体調や希望に合わせ、本人のペースで行えるよう声がけ等を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護員が決めるのではなく、声がけや会話の中で急かせることなく、十分に間をおいて答えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、入浴を拒否しても強制することなく、時間を置いたり、声をかける職員を変える等しており、時間で束縛することのないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には本人の希望で、また、普段からも好みの洋服が着られるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まった献立もあるが、季節毎の地元の旬のものを取り入れており、お手伝いが出来る入居者にはお願いをしている。	調理を行う専任の職員が、一人ひとりの好みや苦手な物を職員や利用者から聞き、バランスの取れた食事を提供出来るように配慮している。また、準備等の作業を利用者に強制することなく、出来る範囲内で一緒に行っていただけるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食、ミキサー食、とろみアップを使用する等、経口摂取量の記録や水分補給の記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りや介助等でイソジンを使用し、うがいも併用しながら、夜間は義歯、歯ブラシの消毒を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用者であっても座位が取れる方に関しては、時間毎にトイレに誘導し、排泄が出来るようにしている。	排泄チェックシートを活用しながら、毎日の支援記録の中で排泄パターンを把握している。また、オムツ使用の利用者が多いことから、オムツはずしが可能かどうか、職員と話し合いながら、随時見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用することなく、出来るだけ果物やヨーグルトを毎日食べられるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低でも週2回は入浴出来るようにしているが、希望があれば入浴が出来、午前中に限らず、午後の希望にも沿うように努力している。	最低週2回を目安に本人の希望に合わせて入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者に対しては、記録を確認しながら無理に勧めることなく、入浴を促す声かけ等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外にもソファで休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録に添付し、処方内容が変わった時には確認をしている。また、緊急搬送時には介護記録の前ページに、処方内容を記録した用紙を貼っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じてお手伝いをお願いしたり、出来るだけ外出の機会を持って、気分転換を図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒い期間が長く、外出する機会は限られているため、春から秋の初めまでは遠出の機会を設けている。	年間行事を計画しており、季節に応じた外出機会を設けて、外出支援につなげている。また、利用者が行きたい場所の把握に努め、家族等からの情報を得ながら協力を呼びかけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一時お金を持たせたこともあるが、しまい忘れが多く、結果として物盗られ妄想につながったので、現在は施設でお小遣い程度を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届いた際は読んで聞かせたり、居室に貼っている他、希望があれば、電話で話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りをしたり、家族との写真や外出・行事等の写真を居室に飾っている。	ホームの窓からは四季折々の草花が眺められる他、ベランダにて野菜を育て、利用者が季節の移ろいを感じられるようになっている。また、外気に合わせて室内の温度調整をしたり、ホームに射し込む日射し等も調整し、快適な空間となるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ前に畳を敷いたり、ソファを置いて、気の合う入居者同士が並んでテレビを見ている。また、玄関には椅子を3個置いており、外を眺めたり花を見ることが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入居時やその都度、使い慣れた物や本人が大切にしていた物を持参するように働きかけてはいるが、思うように出来ない。	入居前から使用していた物や大切にしていた物等を持ち込んでいただくように、家族に協力をお願いしている。また、身の回りの物が少ない利用者には、利用者の意向を確認しながら、利用者と一緒に居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋建て及びバリアフリーの構造で、十分な手すりも備えており、安全な設計となっている。		